

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予報第12号(3月)について

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

予報第12号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類	並 並 やや少	やや多 並 並	やや多 並 並
冬春ナス	すすかび病	やや多	やや多	やや多
冬春トマト	灰色かび病	やや多	やや多	多
冬春キュウリ	うどんこ病 褐斑病	やや多 やや少	やや多 並	並 やや多
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや多 やや多	やや多 やや多	やや多 やや多
茶	カンザワハダニ	並	並	少

防除上特に注意すべき事項

- 1 微小害虫の防除の徹底
ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類等の害虫は、春先の気温上昇に伴い増殖が加速し被害が拡大するので、密度の低いうちに防除を徹底しましょう。
- 2 果菜類灰色かび病の防除の徹底
日最低気温が設定温度より高いと暖房機が稼働しないので、送風等で湿度の低下を図るとともに、罹病葉、罹病果を除去し薬剤防除を徹底しましょう。
【トマト灰色かび病の症状】



果実での発生



ゴーストスポット



茎での発生

< 予想される向こう1か月の天候 >

1週目から2週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。
 天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
 向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年並か多く、日照時間は少ないでしょう。
 週別の気温は、1週目、2週目及び3～4週目ともに高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

(福岡管区気象台 平成22年2月19日発表抜粋)

注：予報の根拠の末尾の()書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生を助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0.8% (平年 1.1%、前年 0.4%)

発病果率 0.2% (平年 0.1%、前年 0.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)。

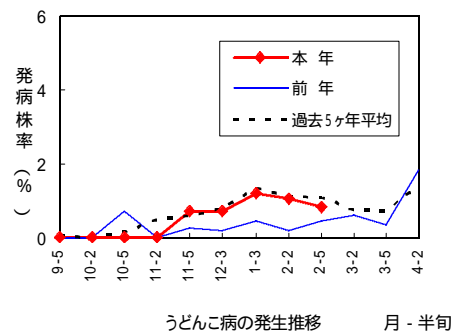
(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、罹病葉、罹病果は見つけ次第処分する。

イ 温度の上昇とともに発生が多くなるので、予防散布を徹底する。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロテーション散布する。



2 イチゴ灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病果率 0.0% (平年 0.1%、前年 0.1%)

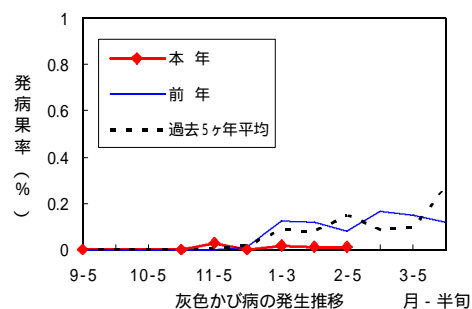
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)。

(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、罹病葉や罹病果は見つけ次第処分する。

イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 老化葉は随時除去し、株間の通風、採光を図る。



3 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

寄生株率 10.7%(平年 15.5%、前年 13.9%)

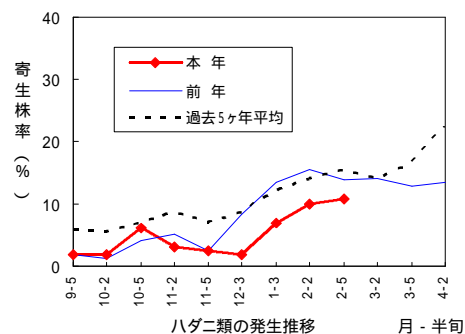
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 防除は摘葉後に行い、葉の裏側にも十分かかるように丁寧に行う。

イ 摘葉や除去した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

ウ カブリダニ類を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



4 ナスすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

発病葉率 25.4%(平年 21.0%、前年 18.7%)

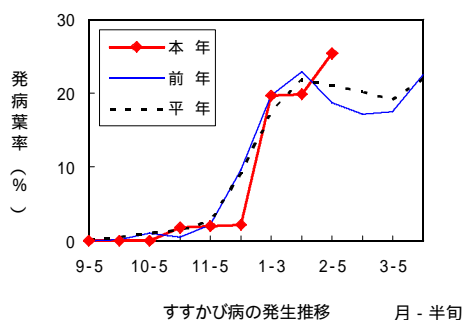
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉は早めに除去し、ほ場外に処分する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 トマト灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

発病果率 1.1%(平年 0.2%、前年 0.4%)

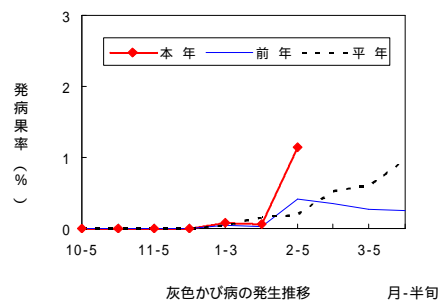
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 罹病果は早めに除去し、ほ場外に処分する。

イ 日最低気温が設定温度より高いと暖房機が稼働しないので、送風等で湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



6 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

発病葉率 4.5% (平年 0.8%、前年 1.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

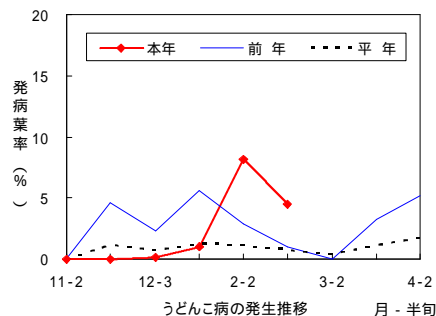
(3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去する。

イ 薬剤散布は、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に行う。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



7 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)

発病葉率 3.3% (平年 5.6%、前年 7.2%)

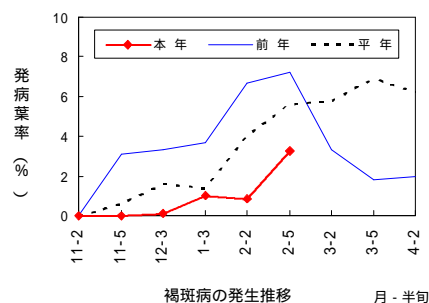
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去する。

イ 薬剤散布は、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に行う。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。



8 ミナミキイロアザミウマ (野菜共通)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

ナス寄生葉率 9.9% (平年 3.3%、前年 4.7%)

ナス被害果率 0% (平年 0.3%、前年 0%)

わらび寄生葉率 4.3% (平年 2.2%、前年 1.3%)

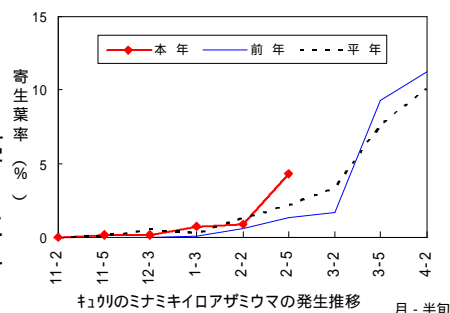
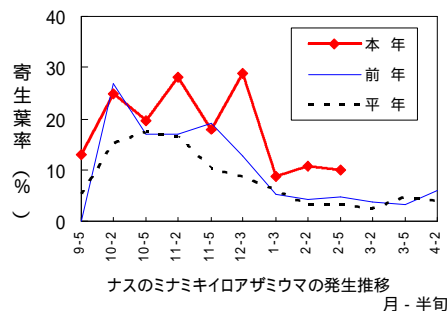
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 本種は、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し蔓延するので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないよう丁寧に散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

ウ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の増殖源を絶つ。



エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤感受性検定結果については、「病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。

(ホームページアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/yasai/yasai-mokuji.html>)

9 コナジラミ類 (野菜共通)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

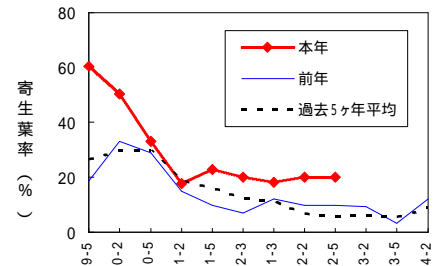
(2) 予報の根拠

ア 2月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

ナス寄生葉率 20.0% (平年 5.6%、前年 9.8%)

トマト寄生葉率 0.2% (平年 1.8% 前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされている(+)



ナスのコナジラミ類の発生推移 月・半旬

(3) 防除上の注意

ア タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病(TYLCCV)やキュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫であるので、早期発見に努め、防除を徹底する。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉を除去し、散布むらがないように丁寧に散布する。

ウ ほ場内の雑草の除去を徹底し、害虫の増殖源を絶つ。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤感受性検定結果については、「病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。

(ホームページアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/yasai/yasai-mokuji.html>)

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春ナス うどんこ病 灰色かび病	やや少 並	並 並	並 並	・換気を行い湿度の低下を図る。 ・罹病葉や罹病果は見つけ次第除去する。
冬春トマト 葉かび病	少	やや少	やや少	・換気を行い湿度の低下を図る。
冬春キュウリ べと病 灰色かび病	少 並	やや少 やや多	並 やや多	・草勢の維持に努める。 ・罹病果は見つけ次第除去する。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生時期： 平年並

発生量： 平年並、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、裾葉における発生量は平年並であった(±)。

(裾葉)

寄生葉率 4.1%(平年 3.8%、前年 7.1%)

50葉当たり寄生虫数 2.8頭(平年 6.2頭、前年12.9頭)

発生ほ場率 77.8%(平年55.7%、前年77.8%)

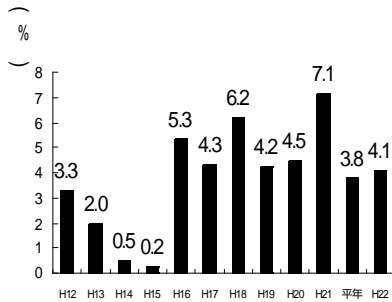


図1 寄生葉率 年

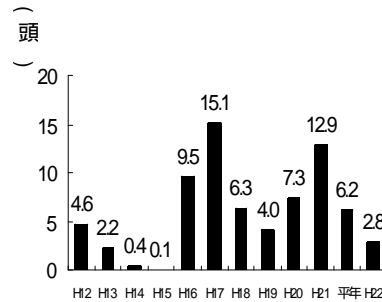


図2 50葉当たり寄生虫数 年

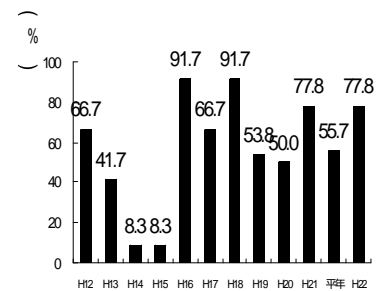


図3 発生ほ場率 年

イ 裾葉の越冬後第1世代孵化幼虫の発生ほ場率は平年よりやや低く、前年より低いことから、現在のところ発生時期は平年よりやや遅い(-)。
ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年よりかなり高いと予想されており、今後発生時期の早期化及び発生量の急増並びに表層への移動の増加が予想される(+)

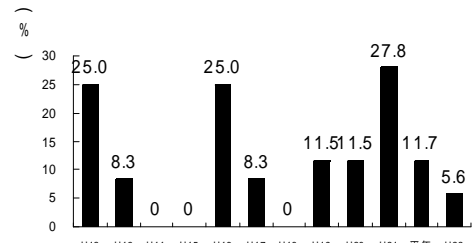


図4 裾葉の孵化幼虫の発生ほ場率 年

(3) 防除上の注意

ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、越冬成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 春期の基本防除は、孵化幼虫の発生初期をねらって、平坦地で3月5~10日頃、山間地で3月10~15日頃を目安に徹底する。

ウ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され、基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるなど十分に注意を払って下さい。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数など、ラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpjn.ne.jp